

学校事故防止の徹底と不祥事の絶無 ～学校教育を支える基盤づくり～

県南教育事務所グランドデザイン

学校教育課通信

令和7年11月12日（水） 第211号
編集・発行：県南教育事務所 平山 明裕

ご理解とご協力ありがとうございました ～令和7年度 学校運営支援訪問を終えて～

令和7年度学校運営支援訪問が終了しました。実施に際してご対応いただきました該当校の校長先生をはじめとした教職員の皆様、そして、各市町村教育委員会の担当者の皆様には、この場をお借りして御礼申し上げます。ご理解とご協力ありがとうございました。

また、今年度は不祥事根絶プロジェクトに基づく教職員との対話も実施させていただき、各教職員の皆様の不祥事根絶に対する思いや学校の取り組みを伺うことができ大変参考になりました。ご理解ありがとうございました。

【令和7年度 学校運営支援訪問実施校】

白河第一小学校、小田川小学校、関辺小学校、表郷小学校、小野田小学校、熊倉小学校、羽太小学校、川谷小学校、吉子川小学校、中畑小学校、高野小学校、矢祭小学校、鮫川小学校、東北中学校、白河南中学校、西郷第二中学校、矢吹中学校、塙中学校、鮫川中学校 【全19校】

学校運営支援訪問は、①学校管理運営改善のための支援、②学校施設・設備等の適切な維持管理についての支援を行うことを主な目的として実施しました。

今回の学校運営支援訪問を各学校の管理運営、特に学校事故防止に役立てていただくために、訪問した学校で行われていた工夫について紹介します。

熱中症予防対策～自己マネジメント力の育成へ～



今年も非常に暑い夏となりました。熱中症予防対策に各校で工夫して取り組まれたことと思います。学校運営支援訪問でも、各校の工夫された対策を多く見る事ができました。

例えば、WBGT（暑さ指数）計を教室や体育館に常設することで、児童生徒に自己マネジメント力を意図的に身に付けさせる取り組みをしている学校がありました。また、毎日暑さ指数を掲示したり、放送で知らせたりする学校もありました。

ある学校の児童生徒昇降口に設置された「熱中症注意報」です。現在の状況を定期的に掲示することで、子ども達の熱中症に対する自己マネジメント力を育てることもつながります。

刃物等の管理 ～総数の掲示と個数の表示～



どの学校でも刃物等の管理は確実にされていました。特に、総数の掲示と対応する刃物等へのナンバリング（個数の表示）が適切にされていました。

ある学校では、総数の掲示と個数の表示がされている上で、刃物等の収納方法を写真でも掲示していました。片付け方法が見える化され、収納されていない刃物がどれなのか一目で分かる工夫がされています。

理科室 ～様々な視点での廃液の処理～



理科の化学実験で生じた廃液について、多くの学校では、写真のように液性毎のポリタンクを用意し、保存してから処理されていました。中学校では金属廃液用のものも用意されている学校もありました。また、教育委員会と連携し業者に廃棄を依頼する薬品を明確にし保管する学校もありました。

化学的な視点と環境的な視点の両面から考えて、廃液をきちんと処理することが大切です。

【化学的な視点】配管等を腐食させないため

【環境的な視点】環境を汚染させないため

服務倫理委員会 ～不祥事根絶に向けて～

不祥事根絶に向けて、「信頼される学校づくりを職場の力で」や通知等が活用され、実効性ある「不祥事根絶に向けた行動計画」が共有されているなど各校で確実に対策がなされていました。また、通知や新聞記事を活用した「服務倫理だより」等の発行もほとんどの学校でおこなわれていました。さらに、以下のような工夫された取り組みも多く見ることができました。

- 「研修用事例集」をもとにグループ協議を行い、協議内容をプレゼンテーションで発表し合う学校がありました。
- 外部講師を活用し、他業種における不祥事根絶に向けた取り組みを研修する学校がありました。
- 教職員主体での不祥事根絶に向けたスローガンや川柳づくりをする学校がありました。また、スローガンをカード型にして携帯している学校もありました。

諸表簿閲覧より ～各校の実効性ある工夫～

学校運営支援訪問では、諸表簿も閲覧しています。どの学校でも適切に諸表簿が作成されていました。特に、以下のような工夫がされている学校がありましたのでご紹介します。

- 通知綴りに関しては、ほとんどの学校で通知等がインデックスと目次で管理され、必要に応じて通知を活用できる工夫がされていました。さらに、法令や生徒指導などファイルを別にして管理したり、教職員への通知方法・周知日を明記する等、工夫している学校もありました。
- 校舎点検簿（火気点検簿）においては、年休や出張等で不在の教職員の代わりに誰が点検するのかを明確にし、点検漏れを防ぐ取り組みがされている学校がありました。また、超過勤務時間の理由がメモ書きされている学校もありました。管理職が把握できるとともに、教職員が自分自身を振り返ることができる取り組みだと思います。